夢窓幼稚園通信第71号

2018年 2月 28日

あんなに小さかった子どもたちが、もう卒園の秒読みです。山盛りの卒園準備の中で今は版画作り。「はんが たのしみ！」「するところないなら でっきでしたら！」と、前向きで目を輝かせます。「かすたたいそう またしたい」と最近ご無沙汰なので、手紙を届けてくれた子もいます。立派に自己表現できるお兄さん、お姉さんです。もちろん黄色バッチさんも赤バッチさんも、みんな夢の国ワンダーランドのそれぞれ個性的な住人です。

宇宙の星々たちの壮大な物語と同じようとは、なかなか思えませんが、実際そんな大きな毎日を子どもたちは過ごしているのでしょうね。
地球はものすごい速度で回りながら移動もしていますから、おだやかにほのぼのと四季折々さら粉を作り、とろーりをこさえながら、大宇宙をも巡っているのです。
そんなふうにイメージしてみると、子どもたちがぐんぐん大きくなっていく訳が少し分かったような気がして、ひとつひとつの時がより愛しく思えてきます。

ちょうちょうぐみの前の渡り廊下の近くで、鮮やかな黄色の菜の花が満開です。
1年前 今の年長さんたちは「子ども宇宙プロジェクト」に参加しました。
描いた絵を持ち撮影した写真と花の種をロケットに乗せ、国際宇宙ステーションまで行くという企画です。
エンデヴァーの発射が遅れ、すっかりそのことを忘れてしまった頃に種は戻ってきました。私たちは「あきまつり」の収穫のセレモニーの折に、次の年のゆたかさを願って鉢にその種を蒔きました。
寒さが厳しかった今年の冬から、昼間はぽかぽかの日なたぼっこのできる頃へと季節が移ってきました。
「うちゅうなのはな」は、今開花し見事です。
その横をたくさんのゆめみどり(古語でちょうちょうのこと)の子どもたちが走り回ります。群れてごっこあそびをふくらませます。静かにゆめを見、出会ったいのちに息をのみます。

一人ひとり大人も子どもも、その人らしくその人としての春、夏、秋、冬を過ごし、また新しい春を迎えます。

それぞれメタモルフォーゼしていく姿を、お互い祝福の中で自分のこととして受けとめ合いながら、この3月に年度のしめくくりと次の時の準備をしていきたいと思っています。

園長　升光 泰雄